

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぷら

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスと理解	3	3	0	<講義内容> ・介護保険サービス（居宅・施設）について ・介護保険外サービスについて ・ケアプランの作成に始まりサービス提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・多職種連携、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<施設見学> ・介護付有料老人ホームぼぷらの見学。 現場見学を通じて、実際のサービス提供現場を学ぶ
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター 発行DVD教材使用
------------	-----------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を概説できる。 ・虐待の定義、身体拘束およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①人権と尊厳を支える介護	3.5	1	2.5	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持について ・介護分野におけるICFについて ・QOLの考え方、生活の質について ・ノーマライゼーションの考え方について ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・人権と尊厳の保持について ・介護分野におけるICFについて ・QOLの考え方、生活の質について ・ノーマライゼーションの考え方について ・身体拘束禁止、高齢者虐待防止法について
②自立に向けた介護	3.5	1	2.5	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・自立、自律支援について ・介護予防の考え方について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・自立、自律支援について ・介護予防の考え方について
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・人権について ・人権への取り組み ・身近な人権のこと
(合計時間数)	9	4	5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ・生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康障がいや受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。 			
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	1	1	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護環境の特徴の理解 ・介護の専門性について ・介護に関する職種について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護に関する職種について
② 介護職の職業倫理	2	1	1	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義について ・介護の倫理について ・介護職としての社会的責任について ・プライバシーの保護、尊重について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・専門職の倫理の意義について ・介護の倫理について ・介護職としての社会的責任について ・プライバシーの保護、尊重について
③ 介護における安全確保とリスクマネジメント	1	0.5	0.5	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全確保とリスクマネジメントについて ・事故予防、安全対策について ・感染対策について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護における安全確保とリスクマネジメントについて ・事故予防、安全対策について ・感染対策について
④ 介護職の安全	1	0.5	0.5	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護職の健康管理が介護の質に影響を及ぼす ・ストレスマネジメントについて ・腰痛予防に関する知識について ・手洗い、うがいの励行について ・手洗いの基本について ・感染症対策について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレスマネジメントについて ・感染症対策について
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解するとともに、各サービスや地域支援の役割について理解する 介護保険制度や障がい者総合支援制度の概念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について理解する。 ケアマネジメントの意義や代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて理解する。 高齢障がい者の生活をさせるための基本的な考え方を理解する。代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的や内容について理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護保険制度	4.5	0.5	4	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度創設の背景および目的、動向について 介護保険制度の仕組みの基礎的理解 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険制度創設の背景および目的、動向について 介護保険制度の仕組みの基礎的理解 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
② 医療との連携・リハビリテーション	1.5	0.5	1	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 医療行為と介護について 訪問看護について 施設における看護と介護の役割、連携について リハビリテーションの理念について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 医療行為と介護について
③ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	0.5	2.5	<講義内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉制度の理念について 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解について 個人の権利を守る制度の概要について <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉制度の理念について 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解について 個人の権利を守る制度の概要について
(合計時間数)	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28
商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて理解する。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性、介護職としてもつべき視点について理解する。 ・言語、視覚、聴覚障がい者とのコミュニケーション上の留意点について理解する。 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントについて理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護におけるコミュニケーション	3.5	1.5	2	<講義内容：テキスト2を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解する。 ・コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーションについて理解する。 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際について学ぶ。 ・利用者の状況に応じたコミュニケーション技術の実際について学ぶ。 <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割について理解する。 ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際について学ぶ。 ・利用者の状況に応じたコミュニケーション技術の実際について学ぶ。
② 介護におけるチームのコミュニケーション	2.5	1.5	1	<講義内容：テキスト2を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化について理解する。 ・報告、連絡、相談の留意点について理解する。 ・コミュニケーションを促す環境について学ぶ。 <通信学習課題の内容：テキスト1を使用> <ul style="list-style-type: none"> ・記録における情報の共有化について理解する。
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢、高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化、特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について理解する。 ・高齢者に多い疾病の種類とその症状、特徴及び治療、生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①老化に伴うこころとからだ の変化と日常	3	1.5	1.5	<講義内容：テキスト2を使用> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について学ぶ。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。 <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴について学ぶ。 ・老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響について学ぶ。
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	<講義内容：テキスト2を使用> ・高齢者の疾病と生活上の留意点について ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・高齢者の疾病と生活上の留意点について ・高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点について
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名		(7)認知症の理解		
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解する。 ・ 認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、及びそれに影響する要因について理解する。 ・ 認知症の心理、行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの図り方、介護の原則について理解する。 ・ 若年性認知症の特徴について理解する。 ・ 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群の予防について理解する。 ・ 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について理解する。 ・ 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、具体的な関わり方（良い関わり方・悪い関わり方）について理解する。 		
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 認知症を取り巻く状況	2	1	1	<講義内容：テキスト2を使用> ・ 認知症ケアの理念について <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・ 認知症ケアの理念について
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理について	2	1	1	<講義内容：テキスト2を使用> ・ 認知症の概念について ・ 認知症の原因疾患とその病態について ・ 原因疾患別ケアのポイントについて ・ 健康管理について <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・ 認知症の概念について ・ 認知症の原因疾患とその病態について
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	0.5	1	<講義内容：テキスト2を使用> ・ 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴について ・ 認知症の利用者への対応について <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・ 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴について ・ 認知症の利用者への対応について
④ 家族への支援	0.5	0.5	0	<講義内容：テキスト2を使用> ・ 認知症の受容過程での援助について ・ 介護負担の軽減（レスパイトケア）について
(合計時間数)	6	3	3	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28
商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいの概念と I C F について理解する。 ・ 各障がいの内容、特徴及び障がいに応じた社会支援の考え方について理解する。 ・ 障がいの受容のプロセスと基本的な介護の考え方について理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
①障害の基礎的理解	1.5	0.5	1	<講義内容：テキスト2使用> ・ 障がいの概念と I C F について ・ 障がい者福祉の基本理念について <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・ 障がいの概念と I C F について
②障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	0.5	0.5	<講義内容：テキスト2使用> ・ 身体障がいについて ・ 知的障がいについて ・ 精神障がいについて ・ その他の心理の機能障がいについて <通信学習課題の内容：テキスト2を使用> ・ 身体障がいについて ・ 知的障がいについて ・ 精神障がいについて ・ その他の心理の機能障がいについて
③家族の心理、かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	<講義内容：テキスト2使用> ・ 家族への支援について
(合計時間数)	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について理解する。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）、生活の中の介護予防、介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法について理解する。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて学ぶ。 ・人体構造や機能、なぜ行動が起こるのかを理解する。 ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備について理解する。 ・家事援助の機能と基本的原則について理解する。 ・装うことや整容の意義を理解する。又、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができるようになる。 ・体位変換と移動、移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車いす、杖等の基本的使用方法を理解する。又、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法を理解する。又、食事に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味、入浴を取り巻く環境整備、入浴に関連した用具について理解する。又、入浴に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具について理解する。又、排泄に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具について理解する。又、睡眠に関するからだのしくみを理解し、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた、留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他職種との連携について理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	1	1	<講義内容：テキスト3を使用> ・倫理に基づく介護 ・法的根拠に基づく介護 <通信学習課題の内容：テキスト3を使用> ・介護の基本的な考え方を学ぶ
②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	2.5	1	1.5	<講義内容：テキスト3を使用> ・学習と記憶の基礎知識について ・感情と意欲の基礎知識について ・自己概念と生きがいについて ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因について ・こころの持ち方が行動に与える影響について ・からだの状態がこころに与える影響について <通信学習課題の内容：テキスト3を使用> ・介護に関するこころのしくみの基礎的理解を学ぶ
③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5.5	1.5	4	<講義内容：テキスト3を使用> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識について ・骨、関節、筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用について ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識について ・自律神経と内部器官に関する基礎知識について ・こころとからだを一体的に捉える ・利用者の様子の普段との違いに気づく視点について ※講師による講義の他、視聴覚教材を活用し理解を深める。 <通信学習課題の内容：テキスト3を使用> ・介護に関するからだのしくみの基礎的理解
(合計時間数)	10	3.5	6.5	

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター 発行DVD教材使用
------------	-----------------------------

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ばぶら

科目番号・科目名		(9)こころとからだのしくみと生活支援技術		
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	5	5	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援について <p>※講師による講義の他、グループワーク等で理解を深める。</p>
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3.5	3.5	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住に関する基礎知識について ・高齢者、障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法について <p>※講師による講義の他、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習ではベッドや車いす、体位変換器等を活用し、多様な介護方法を学びます。</p>
⑥ 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6.5	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識、整容の支援技術について <p>※講師による講義の他、視聴覚教材の活用、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習では多様な身体清潔の方法、口腔ケアの介護方法について学びます。</p>
⑦ 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗に関する基礎知識、さまざまな移動、移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動、移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援について <p>※講師による講義の他、視聴覚教材の活用、実技演習等で理解を深める。実技演習では多様な寝返り・起き上がり・ベッド上での移動・衣服着脱・移乗・移動介助技術について学びます。</p>
⑧ 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6.5	6.5	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援について <p>※講師による講義の他、視聴覚教材の活用、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習では自立支援を促す自助具を活用した食事摂取方法や食事介助技術について学びます。</p>

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター 発行DVD教材使用 介護用ベッド、車いす、体位変換器、歩行補助具、排泄用具、入浴用具、衣類等
------------	---

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名		(9)こころとからだのしくみと生活支援技術		
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑨入浴・清潔保持に関連した こころとからだのしくみと 自立に向けた介護	9	7	2	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について <p>※講師による講義の他、視聴覚教材の活用、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習では入浴補助用具を活用して、多様な入浴介助技術について学びます。</p> <p><通信学習課題の内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護全般について学ぶ
⑩排泄に関連したこころと からだのしくみと自立に向け た介護	9	7	2	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について <p>※講師による講義の他、視聴覚教材の活用、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習では排泄用具を活用して、多様な排泄介助技術について学びます。</p> <p><通信学習課題の内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護全般について学ぶ
⑪睡眠に関連したこころと からだのしくみと自立に向け た介護	2	2	0	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法について <p>※講師による講義の他、実技演習、グループワーク等で理解を深める。実技演習ではベッドメイキングの方法等について学びます。</p>
⑫死にゆく人に関連したこ ころとからだのしくみと終末 期介護	5	3	1.5	<p><講義内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、『死』に向き合うこころの理解、苦痛の少ない死への支援について <p>※講師による講義の他、グループワーク等で理解を深める。</p> <p><通信学習課題の内容：テキスト3を使用></p> <ul style="list-style-type: none"> 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護全般について学ぶ
(合計時間数)	53	47.5	5.5	

使用する機器・備品等	一般財団法人 長寿社会開発センター 発行DVD教材使用 介護用ベッド、排泄用具、入浴用具、シーツ等
------------	--

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標				
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬介護過程の基礎的理解	6	6	0	<講義内容：テキスト3を使用> ・介護過程の目的、意義、展開について ・介護過程とチームアプローチについて ※講師による講義の他、グループワーク等で理解を深める。
⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	<講義内容：テキスト3を使用> ・事例に基づき利用者の状態像を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点の習得。 ※講師による講義の他、事例検討、グループワーク等で理解を深める。なお事例はテキスト3に掲載されているものを使用。
(合計時間数)	12	12	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 28

商号又は名称：株式会社ぼぶら

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
振り返り	2	2	0	<講義内容：テキスト3を使用> ・研修を通じて学んだことについて ・今後、継続して学ぶべきことについて ・根拠に基づく介護についての要点について
就業への備えと研修修了後における実例	2	2	0	<施設見学> 介護付有料老人ホームぼぶらの見学。 現場見学を通じて、実際に行われている介護や生活支援等について学ぶ。
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。